

第1章 並べ替え

第1節 並べ替えの概要と解法

- 1 並べ替えとは：いくつか分割された文章を、筋のとおったまとまりのある文章に並べ替えるという問題

【出題のされ方】

- ・ 次の短文 A～F の配列順序として、最も妥当なのはどれか
- ・ 次の A～F を並べ替え一つのまとまった文章にする場合、最も妥当なのはどれか。
- ・ 次の の文の後に、A～E を並び替えて続けると意味の通った文章になるが、その順序として最も妥当なのはどれか。

2 解法上のポイント

(1) 文章を一読する

まず、どんな文章を並び替えるのかを簡単に把握する。特に注意すべき点は、「指示語」「接続詞」「キーワード」である。

(2) 選択肢を確認

次に、選択肢を確認し、冒頭文が何になるのか、あたりを付ける。

選択肢によっては、いきなり接続語から始まっていて意味が通じないものもあり、そのような肢は切ることができる。

【注意】

なお、文頭の選択肢が指定されている場合もある。この場合、この文頭にくる選択肢にヒントが隠されていることが多い。そのため、文頭にくる選択肢は必ず確認すること。

(3) 短文をつなげる

① 指示語がある場合

指示語がある場合、どの部分のことをさしているのかを把握する。

【指示語の例】

A そのような の過ごし方はとても有意義であろう。

E 彼らは趣味に没頭する を送っている。

「そのような」が示す言葉が問題文中にある。それを見つければ、文章の前後関係がわかる。上記の場合であれば「AはEの後ろにくる」ということがわかる。

その際、指示語が何を指すか「キーワード」がヒントになる。

ただし、「すぐ後ろにくる」とは限らないので、気をつけること。

② 接続詞がある場合

接続詞がある場合、どの部分とどの部分を結んでいるのか、また短文がどういう関係となり文章を構成しているのかを確認する。

【接続詞の例】

B **しかし**、私は〇〇であると考えているのである。
↑
D **たしかに**、一般的には△△と言われている。

「しかし」の文章で自分の意見を述べ、「たしかに」という文章で一般論を述べている。

逆接の接続詞は、自分の意見と異なる文章を受けて文章をつなげるものである。

そのため、「BはDより後ろにある」ということがわかる。

これ以外にも「しかし」などの「逆接」はヒントになる場合がある。例えば、

A **しかし**、～ ということである。
B 〇〇ということにはならない。
C △△ になるということであろうか。
D ×× を確認しておこう。

「しかし」が含まれるAの文末に注目すると、肯定文になっている。ということは、この文の前にくる文章は否定文になっていなければならない。よってAの前にはBが来る。

③ キーワードを確認

C 私は**メモ**を見直しても全く話が分からなかった。
F 上司の話を**メモ**を取りながら、なんとか聞いていた。

文章のキーワードから判断する。文章整序の場合、同じキーワードを続けて使う場合が多いため、ヒントにすることができる。上記の場合では「CとFはつながる」。

また、キーワードを含む文章を小さなグループにまとめ、それから全体をまとめていくと、整序しやすい。

④ 短文の内容を確認し、グループ分けする。

- A 日本人は〇〇
- B 日本の文化では～
- C 欧州を例にみると、…
- D △△での日本は…
- E …という点が海外の特徴ともいえる。

- 1 C－A－B－E－D
- 2 C－E－B－D－A
- 3 C－D－A－E－B
- 4 D－C－E－A－B

A・B・Dは日本についての話であり、C・Eは日本以外という内容になっている。そのため、「ABD」「CE」というグループができる。順番はどうあれ、これらはセットになっていることがわかるので、選択肢をみて、これらが並んでいないものは不正解となる。

上記の場合には、「ABD」が並んでいるのは選択肢2しかない。よって2が正解。などと判断することができる。

(3) 選択肢を確認

自分が決めた順序と一致する選択肢を探す。

全部並び替えてから、ということではなく、一部の順序しかわからない場合はその順序を含む**選択肢を選ぶ**。

指示語・接続詞・キーワード・内容によるグループ分け



その都度、**選択肢と照合し、違う選択肢を消去していく**。

選択肢がない場合には、自分の考えた順序は間違いなので、その時点で考え直す。

(4) 選択肢を一読する

最後に、完成した文章が本当に正しい順番で並べられているかどうかを通読する

確認のためだが、ここで文脈上不自然なものがあれば再検討をする。

第2章 趣旨・内容把握

第1節 要旨把握の概要と解法

1 要旨把握とは：問題文中での筆者の主張を読み取る問題。

(1) 出題のされ方

- ・ 次の本文の要旨として正しいものはどれか。
- ・ 次の本旨(主旨)として正しいものはどれか。
- ・ 次の文章で、筆者が特に主張したいことはどれか
などである。

要旨・本旨・主旨など、本来の言葉の意味は違いますが、試験では同じ意味と考

(2) 注意点

あくまで本文中の筆者の主張を読み取ることが求められる。

そのため、答えの根拠が本文中に必ずある。一般論から考えれば正しい場合であっても、本文中に根拠がなければ、不正解になるということを確認すること。

2 解法上のポイント

前述のとおり、要旨把握＝本文中の筆者の主張であり、言い換えれば「伝えたいこと」。伝えたいのだから、何か目立たせる特徴がある。この特徴をつかむことが重要。

以下、要旨把握上のポイントを挙げていくので、確認してほしい。

(1) 強調表現

最もわかりやすいものが強調表現である。伝えたいからこそ強調している。

① 文末表現

- ・ ○○は**必要**だ
- ・ ○○は**重要**である。
- ・ ○○し**なければ**ならない。
- ・ ○○ということがありえるであろうか(反語表現)。
- ・ ○○**すべき**である。 など文末に強調表現があるときは注意する。